

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松	ユニット名	北ホーム
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成25年2月4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2297100253-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2297100253-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は法人の理念も新たとなり、職員全員がご利用者様への尊敬と共感の気持ちを忘れずに、笑顔溢れる施設を目指しています。日常生活の中で調理、買い物、などの家事や外出を共にしながら、家庭的な雰囲気を大切に暮らすことで「今が一番幸せ」と感じていただけるよう努めています。ご家族の方とも、できる限り日常生活の様子などを共有し、話をする機会をつくり安心していただけるようにしています。行事などの際には、地域の方にも協力していただき交流を深めています。看護師も専従しているので、利用者の方の健康管理やリハビリを相談しながら取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを住宅に囲まれた静かなたたずまいの中にある平屋の建物で、すべての居室に光が差し込むように工夫されており、中庭は広々としている。中庭にはベンチが置かれており布団や洗濯物を干したり休憩のできる場所として使われている。地域住民の理解も徐々に得られるようになり、運営推進会議や防災訓練時の地域住民の参加や、幼稚園児の訪問、ハロウインの行事など様々な場面に住民の協力が得られている。「心の通う憩いの場」の理念のもと、「ほっとする我が家で幸せのお手伝い」の目標を目指して支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は見えるところに掲示し、常に尊敬と共感の気持ちを忘れずに笑顔あふれるグループホームを目指しています。	法人理念のもと、事業所独自の理念はいつも確認できるように、毎日見る日誌に貼って実践できるようにしている。理念のもと、年一回の全事業所での研究発表会が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りに参加したり、施設を屋台の休憩場所として提供したりしている。近隣の子供たちが施設の行事に参加してくれ楽しんでいただける機会をもっている。年に二回地域との合同防災訓練も行っている。	町内会との連携は密にできてきており、祭りでの休憩場所として、また、子供たちがハロウィンに來たり、敬老会に幼稚園児が來たりと地域に溶け込んだ施設である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティア等の受け入れは毎年行っていて、認知症ケア、介護職への理解に繋げている。家族会では外部講師による認知症についての講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市役所、ご家族の方に参加していたり、二か月に一回開催している。日常の様子を報告しながら提案をしていただいたり、行事への参加に繋げている。	定時開催ができており、参加者から自治会の行事案内があり、参加できるようにしている。地域の集まりにも気軽に立ち寄れるような関係作りができつつある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、介護保険に関する疑問などを相談するようにしている。	運営推進会議に参加してもらい、介護相談員も毎月来てくれている。わからないことがあるとすぐに市担当者に連絡をして相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束であるか理解するように勉強をし、言葉や薬による拘束も話し合いをし、減らせるようにしている。玄関の施錠については常時は開放できていないが、見守りできるときは声掛けし開けていれるようにしている。	月1回の全体会議で拘束についての勉強会を行っている。スピーチロックについては今後も勉強会を継続していく予定である。夕方不穏になる利用者には1対1での散歩を行い、拘束にならないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解するよう勉強会をしている。虐待に繋がらないよう働きやすい職場作りに努め、職員の精神面にも気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、わからないことは同じ事業所の支援専門員に相談したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、疑問に答えながら納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、年に一回アンケートを行い、要望があれば対応できるようにしている。意見箱も毎月確認し、施設長に報告している。	毎月送信している「きらら通信」と一緒に個別に連絡できるようにしたり、家族会を開催して職員とも気軽に会話のできる雰囲気を作っている。家族会や食事会にはほとんどの家族の参加が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回面談をする機会があり、意見や提案を直接伝えることが出来る。業務係を中心に業務の見直しをしている。	最低でも年2回面談する機会がある。意見や提案があるときはその都度対応している。職員からの意見でケアを厚くしたいとの思いから8時間夜勤の検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、必要時には面談も行っている。人事考課制度により、公平に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の募集は回覧し、希望を募っているとともに、施設内外の研修に参加し、会議で報告をし勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの施設交流を行い、情報交換など、サービスの向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人やご家族から情報を収集し、どのような生活をしたいか十分に話をするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っている事など、傾聴するとともに丁寧な対応を心掛け、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人はもちろん、ケアに携わる方からの情報を集め、その時必要とされる支援を見極め、提供できるよう努めている。必要となればその他のサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、洗濯、掃除などの家事を共にすることで、会話も弾み楽しく暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時など日常の様子を話したり、昔の話を伺ったりしながら、ご家族と共に本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでもできるようにしている。個別で外出する機会を増やし、本人の馴染みの場所や好きなところに出かけている。	個別外出の機会を増やし、本人のなじみの場所にできるだけ出掛けるようにしている。以前住んでいた場所、以前の職場等、また、コーヒーの好きな利用者には近くのコーヒー専門店でゆっくりと過ごす時間を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、常に良い関係が保てるよう、職員が架け橋となり、話をしたり、レクリエーションを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も施設や病院に面会に行き様子を伺ったり、御家族がボランティアで演奏会をしてくださったり、新聞を持ってきてくださったりしている。きらら祭りにも見えて下さる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に得意なことや好きなものなど、日常生活で活かせることがあるか会議で検討している。	担当職員が中心となって利用者の思いや意向の把握に努め、カンファレンスで全職員の共有を図っている。意思疎通の困難な利用者には、しぐさや表情から、またその家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から施設に入る前の話を伺い、環境・身体・心境の状況を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉など、少しの変化を見逃さないよう、介護記録などにより十分な申し送りをし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、担当職員を中心に課題と対応策を話し合い、ご家族の意見や希望を参考に計画を作成している。	毎月ケースカンファレンスで話し合い、家族の意見も取り入れ、利用者が安心・安全に楽しく過ごせる計画を常に考え作成している。毎月モニタリング表で評価し、定期的に介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・毎月のモニタリング・ケース会議での職員の意見を参考に、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況に応じて、外出したり、併設のデイサービスの慰問を見学したり、事業所内を散歩し、他事業所との交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員、傾聴・学生ボランティアなど、職員ではない人との交流により、刺激を受け豊かに生活できるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定し、受診している。担当医による月に2回の往診と緊急時には連絡が取れる体制が出来ている。口腔衛生管理指導と必要時には訪問歯科が受けられる体制を整えている。	協力医療機関に関係なく希望するかかりつけ医を選択できる仕組みになっている。家族との繋がりを大切にするために家族受診を基本としている。受診時は家族にメモ紙を渡して、受診内容や情報を共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師を確保し日常の心身の情報を共有し、介護職員への助言や指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、担当医や相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針は契約時に説明をし、終末期のあり方については定期的に家族に確認をしている。重度化した場合は、主治医・看護師に相談し、早めに家族と話し合いを持つようになっている。	「重度化対応指針」を用いて入居時に本人・家族を交えて充分話し合い、毎年、事業所の対応に関して同意を得ている。さらに状態の変化により話し合いの場を設け、本人や家族・医師・看護師・職員と連携を取りながら事業所として出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、勉強会では急変時の対応や処置について学んでいる。年に一回消防の職員による救命処置の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練計画を立て、いろいろな想定による防災訓練を月に一回実施している。年に二回は地域との合同防災訓練を実施している。	火災や津波・地震・スモーク・風水害など様々な想定の実地訓練を行って、災害時の対応について全職員の周知を図っている。地域防災組織との協力態勢も整っている。また、備蓄品も用意されている。	夜間想定の実地訓練はまだ行われていないため、計画中である。いつ起こるか分からない災害に備えて早期に訓練の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、常に自己選択や自己決定を意識するようにしている。尊敬や共感の気持ちを忘れずに、入居者本位のケアを心がけている。	相手の気持ちを考えた声掛けや対応を日頃から考え、話し合い実践している。また、スピーチロックの勉強会も取り入れている。情報管理委員会があり個人情報をとまなう管理の仕組みが出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	機会に応じ、やりたい事、行きたいところ、食べたいもの等、日常の生活の中で伺いながら希望にそえるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など、その人の気持ちやペースに合わせて、時間や日にちを変更したり、自分で選んでいただけるようゆとりのあるケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は、自分で服を選んでいたり、行事のときは化粧をすることもある。月に二回の訪問理容の機会があり、カラーやパーマも可能で本人や家族の希望にそえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から始まり、食事をし、片付けまで会話をしながら共にすることで、季節を感じたり、食事を楽しくする事が出来ている。	その日その日で献立を考え、旬の食材を取り入れた食事となっている。買い物から片付けまで一連の流れの中で利用者の可能な作業と一緒にを行い食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表にて確認している。摂取が少ない方には本人が好きなものを提供したり身体機能の悪化によるものに関しては補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人の状況に応じた声かけ・介助を行い、義歯を使用している人には定期的に洗浄剤をしている。今後、口腔衛生指導の導入を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。方法などについて会議で検討し、不安や羞恥心にも気を配る様にしている。	排泄表を利用して、一人ひとりの生活リズムを掴み排泄の自立に向けた支援をしている。さりげない声掛けを実行するとともに声掛けのタイミングを話し合っ支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量・運動を管理するとともに、本人に合わせ乳製品や果物を摂取していただいたり、お腹のマッサージにも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や順序を決めることなく、回数や時間はその日の本人の希望に沿うようにしている。異性の介助者の拒否がある場合は同性の介助者にしたたり、プライバシーにも配慮している。	基本的には、13時半から16時半の間だが、希望に応じ午前中も対応している。入浴回数も希望に沿うようにしている。個浴で1対1での対応はのんびりと利用者職員との貴重な関わり時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具の清潔にも気をつけている。日中は体操や散歩や家事などで体を動かしている。その時の体調に応じて日中横になる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、用法・量・目的が分かるようにしてある。会議では副作用についての説明もしている。薬は複数の職員でチェックする体制ができていて、変更時は記録・申し送りがされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や性格を職員が共有し、一人一人の得意なことや楽しめることを生活に取り込み、活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会があり、その方の趣味や馴染みの場所などに出掛けている。本人の日常の様子をみて、外出をする事もある。行事として季節を感じる外出を計画するよう努めている。	日常的な散歩や買い物のほか、毎日個別に趣味や嗜好に応じて利用者の行きたい場所へ出掛けている。また、お花見や芋掘り・紅葉狩り・海辺など季節にあった外出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人の希望があれば家族と相談し、所持するケースもあるが、ほとんどが事務所で管理をし、買い物や外出時にお小遣いとして使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話が出来るようになっている。年賀状は一緒に書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋で、ゆったりとした居間や廊下には自然の光や緑が見え、常に季節を感じる事が出来る。壁には入居者の作品や季節の掲示物が飾られ、くつろげる空間が広がっている。	明るく、開放的でゆったりした居間は、利用者の憩いの場になっている。季節感を考えた掲示物が多く、調査当日も雛人形が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂はもちろん、広めの廊下には籐の椅子が置かれ、いつでもくつろげるスペースが作られている。畳もあり、落ち着いた雰囲気になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や配置、日用品など安心して生活できるよう配慮している。	馴染みのタンスや仏壇・写真・テレビ・化粧品など個性あふれるものが持ち込まれている。ベッドか布団の寝具も個々に選択でき、心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、混乱しないように目印や表札を掲示している。安全に生活できるよう手すりや感知照明を設置している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松	ユニット名	南ホーム
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成25年2月4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297100253-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297100253-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年2月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は法人の理念も新たとなり、職員全員がご利用者様への尊敬と共感の気持ちを忘れずに、笑顔溢れる施設を目指しています。日常生活の中で調理、買い物、などの家事や外出を共にしながら、家庭的な雰囲気を大切に暮らすことで「今が一番幸せ」と感じていただけるよう努めています。ご家族の方とも、できる限り日常生活の様子などを共有し、話をする機会をつくり安心していただけるようにしています。行事などの際には、地域の方にも協力していただき交流を深めています。看護師も専従しているので、利用者の方の健康管理やリハビリを相談しながら取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は見えるところに掲示し、常に尊敬と共感の気持ちを忘れずに笑顔あふれるグループホームをめ目指しています。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りに参加したり、施設を屋台の休憩場所として提供したりしている。近隣の子供たちが施設の行事に参加してくれ楽しんでいただける機会をもっている。年に二回地域との合同防災訓練も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティア等の受け入れは毎年行っていて、認知症ケア、介護職への理解に繋げている。家族会では外部講師による認知症についての講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市役所、ご家族の方に参加していただき、二か月に一回開催している。日常の様子を報告しながら提案をしていただいたり、行事への参加に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、介護保険に関する疑問などを相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束であるか理解するように勉強をし、言葉や薬による拘束も話し合いをし、減らせるようにしている。玄関の施錠については常時は開放できていないが、見守りできるときは声掛けし開けていれるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解するよう勉強会をしている。虐待に繋がらないよう働きやすい職場作りに努め、職員の精神面にも気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、わからないことは同じ事業所の支援専門員に相談したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、疑問に答えながら納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、年に一回アンケートを行い、要望があれば対応できるようにしている。意見箱も毎月確認し、施設長に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回面談をする機会があり、意見や提案を直接伝えることが出来る。業務係を中心に業務の見直しをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、必要時には面談も行っている。人事考課制度により、公平に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の募集は回覧し、希望を募っているとともに、施設内外の研修に参加し、会議で報告をし勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの施設交流を行い、情報交換など、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人やご家族から情報を収集し、どのような生活をしたか十分に話をするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っている事など、傾聴するとともに丁寧な対応を心掛け、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人はもちろん、ケアに携わる方からの情報を集め、その時必要とされる支援を見極め、提供できるよう努めている。必要となればその他のサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、洗濯、掃除などの家事を共にすることで、会話も弾み楽しく暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時など日常の様子を話したり、昔の話を伺ったりしながら、ご家族と共に本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでもできるようにしている。個別で外出する機会を増やし、本人の馴染みの場所や好きなところに出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、常に良い関係が保てるよう、職員が架け橋となり、話をしたり、レクリエーションを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も施設や病院に面会に行き様子を伺ったり、御家族がボランティアで演奏会をしてくださったり、新聞を持ってきてくださったりしている。きらら祭りにも見えて下さる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に得意なことや好きなものなど、日常生活で活かせることがあるか会議で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から施設に入る前の話を伺い、環境・身体・心境の状況を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉など、少しの変化を見逃さないよう、介護記録などにより十分な申し送りをし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、担当職員を中心に課題と対応策を話し合い、ご家族の意見や希望を参考に計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・毎月のモニタリング・ケース会議での職員の意見を参考に、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況に応じて、外出したり、併設のデイサービスの慰問を見学したり、事業所内を散歩し、他事業所との交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員、傾聴・学生ボランティアなど、職員ではない人との交流により、刺激を受け豊かに生活できるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定し、受診している。担当医による月に2回の往診と緊急時には連絡が取れる体制が出来ている。口腔衛生管理指導と必要時には訪問歯科が受けられる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師を確保し日常の心身の情報を共有し、介護職員への助言や指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、担当医や相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針は契約時に説明をし、終末期のあり方については定期的に家族に確認をしている。重度化した場合は、主治医・看護師に相談し、早めに家族と話し合いを持つようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、勉強会では急変時の対応や処置について学んでいる。年に一回消防の職員による救命処置の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練計画を立て、いろいろな想定による防災訓練を月に一回実施している。年に二回は地域との合同防災訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、常に自己選択や自己決定を意識するようにしている。尊敬や共感の気持ちを忘れずに、入居者本位のケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	機会に応じ、やりたい事、行きたいところ、食べたいもの等、日常の生活の中で伺いながら希望にそえるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など、その人の気持ちやペースに合わせて、時間や日にちを変更したり、自分で選んでいただけるようゆとりのあるケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は、自分で服を選んでいたり、行事のときは化粧をすることもある。月に二回の訪問理容の機会があり、カラーやパーマも可能で本人や家族の希望にそえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から始まり、食事をし、片付けまで会話をしながら共にすることで、季節を感じたり、食事を楽しくする事が出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表にて確認している。摂取が少ない方には本人が好きなものを提供したり身体機能の悪化によるものに関しては補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人の状況に応じた声かけ・介助を行い、義歯を使用している人には定期的に洗浄剤をしている。今後、口腔衛生指導の導入を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。方法などについて会議で検討し、不安や羞恥心にも気を配る様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量・運動を管理するとともに、本人に合わせ乳製品や果物を摂取していたり、お腹のマッサージにも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や順序を決めることなく、回数や時間はその日の本人の希望に沿うようにしている。異性の介助者の拒否がある場合は同性の介助者にしたり、プライバシーにも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具の清潔にも気を付けている。日中は体操や散歩や家事などで体を動かしている。その時の体調に応じて日中横になる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、用法・量・目的が分かるようにしてある。会議では副作用についての説明もしている。薬は複数の職員でチェックする体制ができていて、変更時は記録・申し送りがされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や性格を職員が共有し、一人一人の得意なことや楽しめることを生活に取り込み、活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会があり、その方の趣味や馴染みの場所などに出掛けている。本人の日常の様子をみて、外出をする事もある。行事として季節を感じる外出を計画するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人の希望があれば家族と相談し、所持するケースもあるが、ほとんどが事務所で管理をし、買い物や外出時にお小遣いとして使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話が出来るようになっている。年賀状は一緒に書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋で、ゆったりとした居間や廊下には自然の光や緑が見え、常に季節を感じる事が出来る。壁には入居者の作品や季節の掲示物が飾られ、くつろげる空間が広がっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂はもちろん、広めの廊下には籐の椅子が置かれ、いつでもくつろげるスペースが作られている。畳もあり、落ち着いた雰囲気になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や配置、日用品など安心して生活できるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、混乱しないように目印や表札を掲示している。安全に生活できるよう手すりや感知照明を設置している。		